

すっかんぽ

1995年 3月号

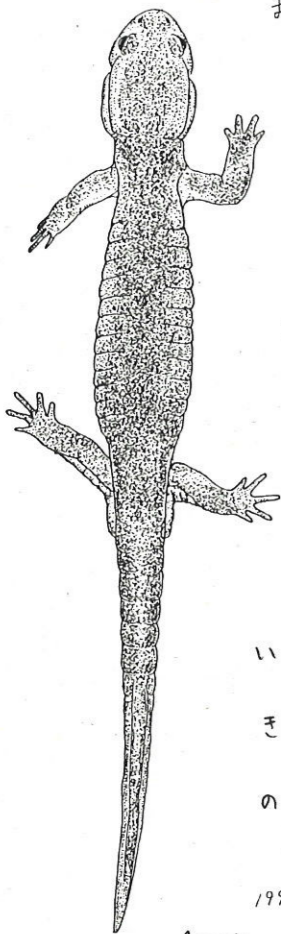
春を待つ

生き物たち

その2.

トウキョウ
サンショウウオ

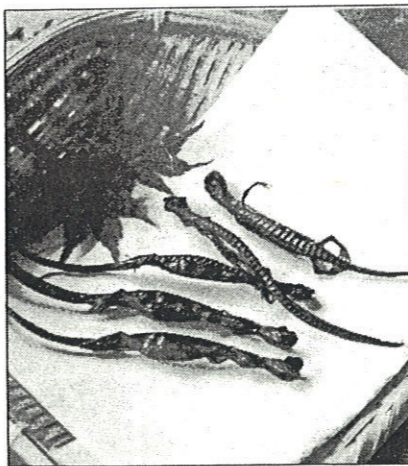
3月1日、卒業式の日。朝から雨が降っていた。普通の人ならば、「え、卒業式なのに雨がよ」となげくところであるが、私の心は、踊っていた。「やったー、雨だ」今年になって初めてのまとまった雨であった。しかし、私以上に、この雨を待ち望んでいたのは、“トウキョウサンショウウオ”だ。たにちがいない。トウキョウサンショウウオは、冬の間は、石の下や土の中で冬眠しているが、春になって暖かくなってくると、目をさまし、毎年同じ場所に産卵にやってくる。産卵場所まで、何百メートル歩いてくるといわれているが、何しろ、大きさは10センチ程度である。人間の大きさをいうと10キロ以上も歩いてくる計算になる。その間の土が乾燥していると、サンショウウオ自身も乾燥してしまうので移動できないのだ。特に今年は雨が少なく、乾ききっていたので、この雨で、いせいに、産卵場所を目ざして移動も始めるのではないかと思っている。



1995.2.8

Aoyagi

ところで、サンショウウオは昔からくんせいにして、「薬用」あるいは、「珍味」として珍重されていた。栃木県の湯西川温泉という所では平家落人の里として有名で、「平家落人料理」と出してくれる。その中には、ニジマスや山島の串焼きに加えて、ムササビやサンショウウオの串焼きまであるのだ。また、奥会津では、1日に1500匹、年間10万匹ものサンショウウオを捕獲し、冷凍しておいて、料理に使っているのだという。ただし、このサンショウウオは、“ハコネサンショウウオ”という種類で、昔は箱根名物であったことから、その名がついたらしい。しかし、箱根では、自然環境が大きく変わったこともあり、天然記念物として保護されるほど激減してしまっている。県南地方にも生息しているトウキョウサンショウウオも、ここ数年、急激に減少しつつある。サンショウウオにとって致命的なのは、産卵する場所（流れのない水路や水たまり）がなくなってしまうことだが、現実には、水路が埋め立てられたり、建物ができてたりすると、目にとると、さびしい思いである。サンショウウオは、夜行性で、夜、産卵地目ざして移動し、数日後に、やとたどりつく。そして、産卵は雨の日から数日後の夜、いせいに、おこなわれるのである。自然の営みは、今この瞬間にも確実に進行しているのである。



→ハコネサンショウウオのくんせい

山椒魚の精

神秘的精力素

定価
1000円 ¥700
1500円 ¥500
送料実費

山椒魚の精
元祖 霧島物産社

日本では一つしかないものはコレ!!
知事 眞実 勇力賞 受賞
博士 加来天民 先生 御推薦
日向特産

**精力体力増強
疲労回復**

全身の諸機能を若返す

山椒魚の精は、山椒魚の精を抽出し、その成分を古くから知られた山椒魚の精と合わせて、山椒魚の精の効果を最大に引き出す。山椒魚の精は、山椒魚の精を抽出し、その成分を古くから知られた山椒魚の精と合わせて、山椒魚の精の効果を最大に引き出す。山椒魚の精は、山椒魚の精を抽出し、その成分を古くから知られた山椒魚の精と合わせて、山椒魚の精の効果を最大に引き出す。